

施策番号	0903		
施策名	国際MICE都市～国際会議，企業研修旅行，イベント等による国際集客都市～への飛躍		
概要	MICEの誘致・振興は，京都ブランド・都市格の向上，市民生活の活性化，経済効果など，社会的及び経済的両面において京都の都市活力を支え，向上させるものであるとともに，京都観光の質の向上に寄与することが期待され，都市戦略として全市を挙げてMICEの誘致・振興に取り組む。		
担当局・部室	産業観光局・観光MICE推進室	共管局・部室	
上位政策	9 観光		
施策に関係する 主な分野別計画等	京都市MICE戦略		

施策の評価

1 客観指標評価

指標名		24年度	25年度	26年度評価					
				前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標の ウエイト
1	コンベンション開催件数(件)	c	b	196	177	250	70.8%	b	1.00
2	コンベンション参加者数(人)	d	a	114,257	100,821	114,257	88.2%	d	1.00
3	コンベンション海外参加者数(人)	b	a	19,383	15,132	19,383	78.1%	d	1.00
4	-	-	-	-	-	-	-	-	
5	-	-	-	-	-	-	-	-	
6	-	-	-	-	-	-	-	-	
		c	a	客観指標総合評価				c	

2 市民生活実感評価

*この評価は，毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問		26年度回答						
		そう思う	どちらかと言 うとそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言 うとそう思わ ない	そう思わ ない	有効回答 者数	評価
1	京都は、国際会議などが盛んに開かれるMICE（企業のミーティング、企業研修旅行、国際会議、イベントなどの総称）都市になってきている。	70	182	169	44	9	474	b
		14.8%	38.4%	35.7%	9.3%	1.9%		
2	-							-
3	-							-
4	-							-
5	-							-
		市民生活実感調査総合評価						b

3 総合評価(客観指標総合評価+市民生活実感調査総合評価)

B	施策の目的がかなり達成されている					25 年度	B
	重み付け	☐ 客観指標	c	☒ 市民の実感	b		
(重み付けの理由) 観光客だけでなく市民にとっても満足度の高い観光振興を図ることを目的としており、市民生活実感評価を重視して評価することが妥当であると考えため						25 年度	B
(原因分析) 【客観指標】●コンベンション開催件数は、直近の5年間では平成24年に次いで2番目の開催件数となった。平成23年の震災の影響を超えて、順調に回復、好調に推移しているため、b→b評価と安定している。 ●コンベンション参加者数及びコンベンション海外参加者数については、国際会議は基本的に開催周期があること、また大型会議施設の大規模改修工事などのマイナス要因が重なったため、a→d評価と悪化した。 【市民の実感】京都の国際MICE都市としてのイメージが市民の間にできつつあるため、昨年度に引き続きb評価になったものと考えられる。						24 年度	B

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		26年度事務事業評価結果 における目標達成度評価	担当局
		25年度 決算額	26年度 予算額		
1	国立京都国際会館の拡充整備	11,101	20,665	—	総合企画局
2	コンベンション等MICE推進事業	67,400	74,268	普通	産業観光局
3	グローバルMICE戦略都市としてのマーケティング戦略推進事業	14,445	13,541	普通	産業観光局
4	みやこめっせのMICE拠点化	2,067	—	—	産業観光局
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

* 予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

●平成22年3月に策定した「京都市MICE戦略」に基づき、平成24年度に体制強化を図った京都文化交流コンベンションビューローと連携し、受入環境の整備や積極的な誘致施策の推進などにより、コンベンションをはじめとしたMICEの誘致活動を進めていく。

施策名	0903	国際MICE都市～国際会議，企業研修旅行，イベント等による国際集客都市～への飛躍					
指標名	コンベンション開催件数（件）						
担当課	観光MICE推進室		連絡先	7 4 6－2 2 5 5			
1 指標の説明							
1年間に京都市域内で開催された会議で，日本を含め3箇国以上から総勢50名以上の参加のあった国際会議の開催件数							
2 指標の意味							
経済，文化，国際交流等の様々な分野への波及効果を伴う国際MICE都市の実現に向けた進捗状況を示す指標							
3 算出方法・出典等							
出典：京都文化交流コンベンションビューロー「京都で開催の国際会議」，日本政府観光局「国際会議統計」							
4 数値							
	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値			
	24年	25年		数値	根拠	達成度	
数値	196	177	19件減	250	国内第2位を上回る数値	70.8%	
	全国順位	中長期目標			備考	数値の公表時期の関係により，評価は暫定値で行い，前回数値は実数に修正する。	
		数値	目標年次	達成度			根拠
数値							
5 評価基準							
最新数値の目標値に対する達成度が a：80%以上 b：60%以上～80%未満 c：40%以上～60%未満 d：20%以上～40%未満 e：20%未満							
6 基準説明							
当該指標については，民間部門の寄与度が比較的高いことや景気動向にも影響を受けるため，80%以上をa，以下20%刻みで基準を設定した。							
7 評価結果							
	24	25	26				
	c	b	b				

指標名	コンベンション参加者数（人）						
担当課	観光MICE推進室		連絡先	7 4 6－2 2 5 5			
1 指標の説明							
1年間に京都市域内で開催された会議で，日本を含め3箇国以上から総勢50名以上の参加のあった国際会議に参加した人数							
2 指標の意味							
経済，文化，国際交流等の様々な分野への波及効果を伴う国際MICE都市の実現に向けた進捗状況を示す指標							
3 算出方法・出典等							
出典：京都文化交流コンベンションビューロー「京都で開催の国際会議」，日本政府観光局「国際会議統計」							
4 数値							
	前回数値	最新数値	推移	目標値			
	24年	25年		数値	根拠	達成度	
数値	114,257	100,821	13,436人減	114,257	過去5年間の最高値	88.2%	
	全国順位	中長期目標			備考	数値の公表時期の関係により，評価は暫定値で行い，前回数値は実数に修正する。	
		数値	目標年次	達成度			根拠
数値							
5 評価基準							
最新の数値が過去5年間の a：最高値以上 b：上中間値（最高値と平均値の中間値）以上～最高値未満 c：平均値以上～上中間値未満 d：下中間値（平均値と最低値の中間値）以上～平均値未満 e：下中間値未満							
6 基準説明							
各年度の具体的な数値目標の設定が困難であるため，過去5年間の数値の推移で評価する。 最高値 114, 257人（平成24年） 平均値 102, 892人 最低値 84, 391人（平成23年）							
7 評価結果							
	24	25	26				
	d	a	d				

施策名	0903	国際MICE都市～国際会議，企業研修旅行，イベント等による国際集客都市～への飛躍				
指標名	コンベンション海外参加者数（人）					
担当課	観光MICE推進室		連絡先	7 4 6－2 2 5 5		
1 指標の説明						
1年間に京都市域内で開催された会議で日本を含め3箇国以上から総勢50名以上の参加のあった国際会議への海外参加者数						
2 指標の意味						
経済，文化，国際交流等の様々な分野への波及効果を伴う国際MICE都市の実現に向けた進捗状況を示す指標						
3 算出方法・出典等						
出典：京都文化交流コンベンションビューロー「京都で開催の国際会議」，日本政府観光局「国際会議統計」						
4 数値						
	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	24年	25年		数値	根拠	達成度
数値	19,383	15,132	4,251人減少	19,383	過去5年間の最高値	78.1%
	全国順位	中長期目標				備考 数値の公表時期の関係により，評価は暫定値で行い，前回数値は実数に修正する。
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値						
5 評価基準						
最新の数値が過去5年間の a：最高値以上 b：上中間値（最高値と平均値の中間値）以上～最高値未満 c：平均値以上～上中間値未満 d：下中間値（平均値と最低値の中間値）以上～平均値未満 e：下中間値未満			6 基準説明			
			各年度の具体的な数値目標の設定が困難であるため，過去5年間の数値の推移で評価する。 最高値 19,383人（平成24年） 平均値 15,982人 最低値 12,941人（平成21年）			
7 評価結果						
24		25		26		
b		a		d		